

高齢者を支えるボランティア

心込めて作り 笑顔で届ける はつらつ弁当

皆さんは「はつらつ弁当」をご存知ですか。高齢社会と核家族化が進む中、一人暮らしのお年寄り世帯を対象に配達している福祉弁当ですが、これらはボランティアの方々によって作り、届けられているのです。高齢者を支えようと活動している皆さんをレポートしてみます。



笑顔いっぱいボランティアのかた(右)がお弁当を届けます

はつらつ弁当は、70歳以上の一人暮らしの高齢者や障害のあるかたなどへ手作りの弁当を配達し、健康状態の確認と自立生活を援助するために始められました。

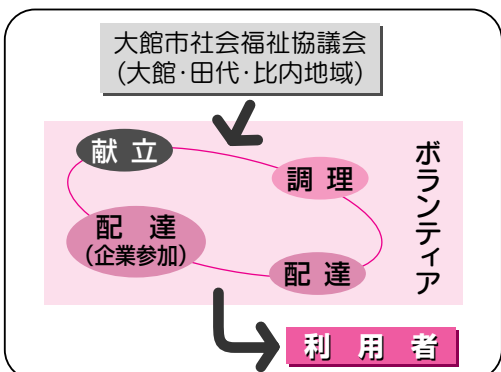
私が住む比内地域で実施していたのは分かっていましたが、調べてみると、合併前から各市町の社会福祉協議会を主体に行われていて、旧田代町が一番早く昭和55年から、次いで旧比内町は昭和62年ごろ、旧大館市でも15年ほど前から実施したそうです。

当時は、旧比内町が無料、旧大館市が400円などと各協議会で利用料金が異なっていました。平成17年6月、新市になった際に各協議会も合併となり料金を統一。現在は300円となっていますが、各地域で集められた「赤い羽根共同募金」の一部を助成して、実際は500円



NO. 3 広報 市民リポーターだより

リポーター 岸 喜一さん (笹 館)



ほどの弁当が提供されています。調理や配達、各地域の婦人会などの団体、住民のほか企業の各ボランティアの皆さんが行っています。地域によって配達する回数や方法などに違いがあるとのこと。それぞれの違いや地域の実情などを取材してみました。